

令和2年度第1回総合教育会議における意見への対応案

○全体として

委員の意見	対応案
「子どもを育てるなら栃木県が一番！」を実感できる魅力ある内容にしていかなければいけない。	文章の修正及び「主な取組」の選定で対応 （「第1はじめに 1趣旨」において、保護者の行事参加率が高いことについて記載）
栃木県をアピールしたい。栃木独自の取組を基本目標や「施策の方向」の「主な取組」にどのように入れていったらよいかを具体的に考えたい。	

○第1はじめに 1趣旨

委員の意見	対応案
人生100年時代の五分の一程度、スタートラインに立ったあたりでは、学ぶ方法論、学ぶ基礎をしっかりと身に付けていく必要がある。	「第1はじめに 1趣旨」に追記
（育てるべき力として記載のある）「新しい価値観や行動を生み出せる力」の後あたりに「世界とのつながりを考える力」等の視点があるとよい。	「第1はじめに 1趣旨」に追記
「子どもを育てるなら栃木県が一番！」の後に「家族と一緒に暮らすのは栃木県がいい！」という文が必要ではないか。	「子どもを育てるなら栃木県が一番！」（＝学校教育）、 「いくつになっても生きがいをもって元気に暮らせるのは栃木県！」 （＝生涯学習） ⇒その上で「家族と一緒に暮らすなら栃木県！」につながるように記載

○第2 基本目標

委員の意見	対応案
「自分の未来を描き、切り拓ける人材」だからこそ持続可能な社会の創り手となることができるといった論理展開がどこかにあるとよい。	基本目標設定に当たっての考え方を「第2 基本目標」の冒頭に追記し、その中で「持続可能な社会を力を合わせて築いていくことができるよう、『自分の未来を描き切り拓いていくことのできる力』の育成を目指す」ことを記載
「知・徳・体」は時代にあった言葉を使うべき。	学習指導要領における「確かな学力、豊かな人間性、健康・体力」で置き換え

○教員に関する記述について

委員の意見	対応案
<p>9つの施策の方向の前提として、教員へのアプローチや施設・設備、家庭・地域との連携などを位置付けるべき。</p>	<p>教員の資質・能力の向上を含む教育の基盤の充実について、現行大綱と同様に「基本目標1」の中に位置付け、新たに「施策の方向」として設定</p>
<p>全人教育を旨とする日本の学校教育は素晴らしいと思うが、そのことに伴う教師の負担をどうするのかについても大綱のどこかで触れるべき。</p>	
<p>教員については、資質・能力の向上と同時に、教員にとっての働きやすい場づくりという表現も加え、具体的な方策を打ち出していくことが必要。</p>	
<p>教員については、地域との様々な連携の中で教員の仕事は増えていく。アウトソーシングする部分と教員の担うべき業務とを整理しなければいけない。</p>	

○施策の方向1 確かな学力の育成

委員の意見	対応案
<p>栃木県における学校像を描く必要がある。学校像を描くには教師についても述べていく必要がある。</p>	<p>「施策の方向1」の「主な取組」に、PBLを包含した「課題の発見や解決に向け主体的・協働的に学ぶ学習の推進」を記載 また、地域と連携したPBLについては、「施策の方向7」の「主な取組」に、「地域課題解決に向けた高校・大学等と地域・企業等との連携・協働の取組の促進」を記載</p>
<p>骨子案で目標とされている「自分で未来を切り拓ける人材の育成」ということを考えると、従来の枠から一歩踏み出すという勇気が、この大綱には必要なのではないかと思う。</p>	
<p>持続可能な社会を創っていきたり、自分の未来を切り拓いていきたりできる人材を育成する一つの方策が「PBL (Project Based Learning)」。例えば地域と連携してPBLを徹底的に行う栃木県の学校のモデルというものを本気で創っていくことが重要ではないか。中高連携、小中連携、幼小連携などの連携をPBLという形で取り組むのもよい。</p>	

○施策の方向2 豊かな心と健やかな体の育成

委員の意見	対応案
<p>今は学力優先で、勉強以外のことができないことが多くなっている。読書をする時間なども十分でない。もう少し余裕を持たせてあげたい。</p>	<p>「主な取組」に「子どもの読書活動の推進」を記載</p>
<p>防災教育は、地域コーディネーターやPTAなどを巻き込んでうまく機能していけば、子どもたちの地域への愛着も育まれ良い結果につながっていくのではないか。</p>	<p>「主な取組」に「防災教育など学校安全教育の充実」を記載</p>

○施策の方向3 子ども一人ひとりに応じた教育・支援の充実

委員の意見	対応案
<p>外国籍等の子どもたちの教育もしっかり行っていくことで、今後の栃木県を支えていく有能な人材の育成につながっていく。</p>	<p>「主な取組」に「日本語指導が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援」を記載</p>
<p>コロナの影響により経済格差が教育格差につながることを危惧している。栃木県では、学びたい子どもには必ず支援するということも今回の大綱ではしっかりと述べていただきたい。</p>	<p>「主な取組」に「幼児教育・保育の無償化や家庭の経済的負担軽減のための修学支援」を記載</p>

○施策の方向4 教育の基盤の充実

委員の意見	対応案
<p>ICTの活用とあるが、いち早く環境を整備してよい教育ができる環境を整えていくことが必要。</p>	<p>「主な取組」に「ICT環境の充実と教員のICT活用指導力の向上」を記載</p>
<p>今後、新たな感染症の流行に備えるためにも、安心して教育が受けられる環境作りが重要。具体的には、少人数学級を更に進めてもよいのではないか。あるいは、指導助手等の人員を増やす。更にICTを活用して複数の教室で同時に同じ授業を受けられるようにするなど。傷病中で登校できない子の学びの保障にもなり、不登校の子にとっては、学びの保障にもなり、登校のきっかけにもなる。</p>	<p>「主な取組」に「少人数学級及び少人数指導によるきめ細かな指導の推進」、「ICT環境の充実と教員のICT活用指導力の向上」を記載 また、学校の安全について、「主な取組」に「教育活動における安全管理の徹底」を記載</p>

○施策の方向5 自分の生き方を考える教育の充実

委員の意見	対応案
<p>中学までは様々な子どもがいる中で、揉まれながら教育を受けるが、高校に上がると均質な生徒が集められる。その後、社会に出て様々な人に出会い、心が折れてしまう子が多い。中学の職場体験の回数を増やしたり、ボランティアの機会を増やしたりしてあげたい。</p>	<p>「主な取組」に「小・中・高等学校それぞれの段階における職場見学や職場体験活動、就業体験活動の推進」を記載</p>
<p>「家族や所属する集団、地域社会の中で自分の役割を果たしていくことを通して」という文言はない方がよい。</p>	<p>記載を削除</p>
<p>ここでの「主な取組」で重要なのは、想定もしていなかったような、様々なことが起きたときに、そうした課題に対する問題解決能力をどうやって高めるかということ。</p>	<p>「主な取組」に「自己指導能力」を記載</p>

○施策の方向6 社会に参画する力を育む教育の充実

委員の意見	対応案
<p>高大連携が挙げられているか、例えば、大学のオープンキャンパスに中学生も参加できると、夢が広がり、将来の志も生まれてくるのではないか。</p>	<p>「主な取組」に「異世代交流等の体験的な学習やボランティア活動の推進」を記載</p>
<p>新学習指導要領では持続可能な社会の創り手となれるようにすることが強調されている。</p>	<p>「第2 基本目標」及び「施策の方向6」本文にSDGsについて記載</p>
<p>県内のグローバル化も進み、県内に居住する外国人も多くいる。多様性を認め、自他の尊さを尊重する教育を充実させる必要がある。</p>	<p>「主な取組」に「多文化共生社会の担い手として必要な資質・能力の育成」を記載</p>

○施策の方向7 学校・家庭・地域の連携・協働の推進

委員の意見	対応案
<p>子どもたちが様々な経験をできるようにするにはどうすればよいかということ、もう一度真剣に考えるべき。学校教育と地域での活動をうまく融合させ、お互いに学び合える環境づくりが必要。例えば、小・中・高・大生が一緒に一つのプロジェクトに取り組み、そこに地域の人々や企業が関わるなど、それを学校の中でできればベスト。それを新しい栃木モデルとしてできないか。</p>	<p>本文に幅広い年代による学び合いについて記載するとともに、「主な取組」に「地域学校協働本部等の地域の組織体制整備への支援や学校協働活動推進員等の養成」、「地域課題解決に向けた高校・大学等と地域・企業等との連携・協働の取組の促進」を記載</p>

○施策の方向9 高度な知識・技術、多様な文化に触れる教育の充実

委員の意見	対応案
<p>グローバル人材の育成は国際交流等にとどまらず、国際資格などライセンスの部分にも触れながら目標を持たせていくことも必要。</p>	<p>本文に「グローバル化に対応できる人材」について記載するとともに、「主な取組」に「国際的視野やチャレンジ精神の涵養」を記載</p>
<p>高校生が大学との連携や企業やNPOとの連携、交流を通じて、社会とは何か、その中で自分はどのような役割を果たしていくのかを学んでいけるように、大学や企業などとの関わりをかなり具体的に記述した方がよい。</p>	<p>「主な取組」に「企業における最先端の技術に触れる機会や、各産業分野の専門家から高度な知識・技術を学ぶ機会の提供」を記載</p>

○施策の方向10 スポーツ・文化の振興と生涯学習の推進

委員の意見	対応案
<p>周辺地域では、子どもたちがスポーツ少年団に身を置くことが困難な状況がある。ここを何とか改善したい。スポーツや文化に関わる環境づくりを進めていくと栃木県で子どもを育てようと県外からも栃木県に来ていただけるような教育の基盤につながればよい。</p>	<p>「主な取組」に「すべての県民がスポーツに親しむことができる機会の提供」を記載</p>
<p>今回のコロナの影響で子どもたちの体力が落ちていることを心配している。国体に向けて、子どもたちの意識も一緒に高まっていくとよい。</p>	<p>「主な取組」に「国民総参加によるいちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会の開催や大会を通じて培われた有形・無形のレガシーの承継」を記載</p>